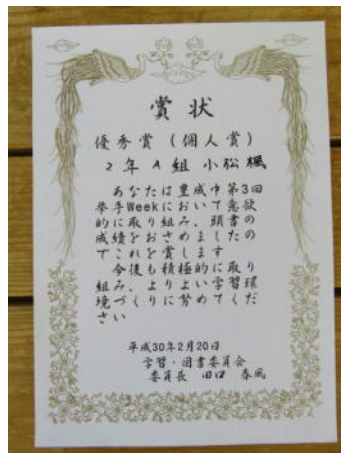
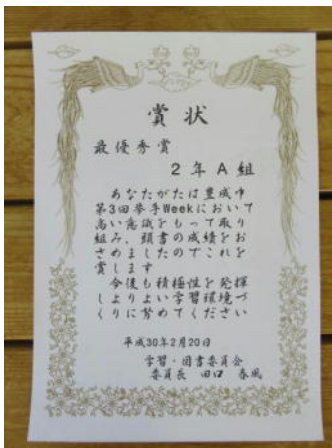




豊成中学校
2年部 学年通信
No.86
平成30年2月20日

第3回挙手ウィーク表彰

今年度最後となる挙手ウィークの表彰が行われました。挙手の回数が最も多く、積極的な態度で授業に臨んでいたクラスとして2年A組が選ばれました。また、その中でも特に発表が多かった小松楓さんに個人賞として賞状が授与されました。



本校の2年生は「授業態度」「疑問を解決しようとする探究心」「家庭学習の内容」「読書量」など県内でもトップレベルです。そのため、学校報でも紹介されていましたが、12月に行われた県学習状況調査の結果も非常に良好なものでした。しかし、個々に注目すれば課題もたくさんあります。自己の課題を正しく分析して毎日の授業や家庭学習で克服していくことが自分の将来のためなんだと認識させたいものです。つまり、日々の家庭学習の積み重ねが受検勉強なのです。

今から150年ほど前に生まれた心理学者で「アルフレッド・アドラー」という人がいます。彼は親子の関係は対等なものであると考え、「子どもが人生の課題に取り組み、乗り越えていくための勇気を与えることが大切」であると言っています。先日、金メダルを取った小平奈緒選手がスケートを始めた頃の映像をテレビで見ましたが、そこにいるお父さんはまさに勇気を与えている父親でした。人は楽しさが分かれば黙っていても頑張ります。そして、やらなければ自分が損をすることも知っています。それを突き詰めていったのが羽生結弦選手や小平奈緒選手ではないでしょうか。羽生選手は現役続行を表明しました。金メダルはゴールではなく、一つの通過点としてより高いところを目指そうとする姿勢に勇気づけられます。そういえば新聞に郷土力士の豪風関も現役続行という記事がありました。素晴らしいと思います。